

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 2472800594 | | |
| 法人名 | 有限会社 リリーフ式千巻 | | |
| 事業所名 | グループホーム長閑村 | | |
| 所在地 | 三重県度会郡度会町小萩610 | | |
| 自己評価作成日 | 24年8月26日 | 評価結果市町提出日 | |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaizokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvosvoCd=2472800594-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成24年9月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

古民家を利用した住まいは、家庭的な雰囲気の中穏やかにゆったりとした時間の流れる中、心穏やかに過ごせる事業所です。職員も経験豊かで、入居者様を温かく、ゆったりと受け入れることができ、ご家族様からも信頼されている。健康管理面では主治医との連携体制をとっております。地域の方たちと一体になり地域に根ざした事業所でありたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古民家利用のグループホームは縁側が広く、開けられている。建物全体はオープンにされ、周りの田園風景と一体化し、間近に四季を感じ取れる事業所である。しかし、老朽化と裏山の土砂災害の危険を指摘されており、安全と衛生面等を考慮し、本年12月1日には危険のない土地に移転し、新しい建物で再スタートをきるべく準備中である。経営者や職員達は自分の祖父・祖母のように家族的対応で、毎日を過ごしてもらいたいと、利用者の個性を大切にし、一人ひとりのペースでゆったりと過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所内に理念を提示し、実践につなげるように取り組んでいます。 | 職員達は自分たちの家族に接するように支援している。一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけ、職員同士気がついた時や申し送り時等に理念を逸脱しないよう注意し合って実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議を通じて、民生委員や、老人会長との意見交換を行い、情報を得たり、地域行事参加を依頼している。 | 近所や地区の方々との関わりを大切にし、一之瀬地区の祭の企画や運営にも関わっている。祭には利用者と一緒に参加し、交流している。自治会には入会していないが、回覧板が回されて情報を共有出来る等、地域の一員になっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の人の理解や、支援の方法を広めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、利用者の日頃の様子や事業所としての活動内容を報告している。それらに対する評価や意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。 | 奇数月に定期に開催されている。利用者・行政・民生委員・老人会長・駐在等の参加があり、入居者の状況や職員の状況等も報告し、意見交換が行われ、オープンな運営とサービスの向上に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議への出席をはじめ、そのほか連絡を密にしており、情報交換や指示を仰いだり、円滑な運営の為に協力を依頼している。 | 社協や町の担当者とはいろいろな相談に乗ってくれたりアドバイスがあったり、話しやすく協力関係が出来ている。町主催の研修会にも参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての正しい認識を持ち、拘束廃止に向けた取り組みをしている。止むを得ない場合のみ同意書を取り、記録を残し実地している。玄関や縁側は夜間のみ施錠するが誰でも簡単に解錠できる状態にある。 | 一時、ずり落ち予防でY字帯を使っていた利用者は、体力の低下でベッドで過ごす事も多く、使用していない。夜間は玄関や縁側等施錠しているが、誰でも開ける事ができる。2ヶ月に1回は身体拘束をしない為の勉強会を行い皆で確認している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員会議で勉強会を持ち、虐待防止について学び、十分理解している。職員は常に穏やかに接しており、事業所内での虐待は皆無であると断言できる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在その制度を必要とするケースはないが、資料にもとづき勉強会を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 締結の際、契約書及び重要事項説明書について十分理解し、理解、納得の上での署名、捺印してもらっている。それぞれ控えを渡しトラブルに発展しないように配慮している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日頃から職員と入居者が何でも話せる雰囲気心を心がけており、それを運営に反映させている。事業所内に苦情受付の流れや、申立先を提示し外部への意見を発信できるような環境を整えている。 | 家族には月1回は面会に来ていただいており、意見交換をしている。家族会も開催し8名中6名の参加が得られている。スーパーで職員に声掛けしてくれる等、家族は意見を言い易くそれらの意見は運営に反映されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的ミーティングや、いつでも話し合える環境の為の意思の疎通や意見交換は十分行われており、それらを反映する事ができる。 | 旧管理体制から新管理体制への急激な変換・新しい事業所への移転準備等で、定期的な職員会議が行われていない。現場では同じ介護に当たるもの同士の意見交換は行われている。 | 移転のため現在の入居者は6名であるが新しい体制作り、安全な移転、法的な業務等のクリアに向け、定期的に職員の意見を聞く体制作りとその意見を運営に活かせるよう期待したい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は常に現場の状況を踏まえて、職員が働きやすい環境整備に努め、勤務状況や個々の努力を認め、給与の見直しをするなど、やりがいを持って働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所内での勉強会や研修会へも順次職員が参加し伝達講習を行っている。介護福祉士など国家資格取得のすすめや、支援を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣のグループホームとは、利用者を含め相互訪問や合同の行事を企画し、交流を深めサービスの質の向上へつなげている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 認知症の為、本人からの聞き取りは困難な場合はあるが、家族からの聴取りや施設及び職員に慣れてきた時点で言動などから徐々に要望や不安を引き出すよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面接時、契約締結時に意向の確認を行いご家族の不安なこと、求めているものを十分理解した上で、事業所としてどのような対応ができるか検討、実践し、不安なく事業所での生活が送れるよう配慮している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談を受ける時点ですでにグループホームへの入所を希望されている場合がほとんどであるが、ニーズの把握や意向確認に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護する側、される側という意識を持たずひとつ屋根の下で共に過ごす家族という思いで、年長者を敬い生活している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 生活の様子や、健康状態などを随時家族に報告したり、写真入りの新聞を送るなど情報の共有に努めている。気がかりなことは共に解決方法を考えるなど家族の思いに寄り添いながら一緒に本人を支えていく。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 幼馴染の友達や近所の方が訪ねてきてくれたり、共にお墓詣りに行くなど、大切な人との絆が途切れないよう支援している。 | 老人会長が同級生で、昔の話をしてくれたり、聞いてくれたりする利用者がいる。家族からの情報や親身に話を聞く等で関係が継続できるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 認知症レベルに差があるためコミュニケーションがとりにくいケースもあるが、職員が仲介役となり、孤立することなく関わり合い、支えあえるよう支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や在宅復帰などにより退居した場合も今後についての相談や、情報提供などを行い、フォローアップに努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の関わり合いの中でよい信頼関係を築き、なんでも話してもらえ環境づくりを心がけている。自分の思いや希望を言えない利用者には表情や態度などから把握するように心がけている。 | 意思表示できる利用者はじっくり時間をかけて話しを聞いている。入浴時、「気持ちよい」と言いつつ話してくれたり、気分の良い時自分から話してくれる。また意思表示をされない利用者は、表情や態度を見て意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族からの聴き取りのほか、入所前の病院や施設などから情報提供してもらったり、本人とのコミュニケーションの中から把握するように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 受け持ち制を取り入れ、職員が自分の受け持ちの入居者に対しては、特に細かく、内面的な部分まで把握するように努め、他の職員に伝わるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画立案前に意思確認できる方については確認を行い、そのうえで家族や職員と課題やケアの在り方について話し合い、プランに反映している。 | 今まではケアマネージャーが本人の思いや意向・家族の意見や介護記録等を参考に介護計画が作成されており、チームとしての話し合いはなかった。新しいケアマネージャーが採用される機会にチームとしての取り組みをする準備をしている。 | 新しいケアマネージャーと共に、職員もモニタリングを行ったり、職員全体でのケアカンファレンスやミーティング時に情報や意見交換を積極的に行い、その時その時にあったチームとしての介護計画作りを期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録は実践の記録だけでなく介護者の気づきや本人の受け止め方を利用者の言葉で記録し、皆が情報を共有して介護計画を見直し、実践に生かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族状況も考慮し、遠方の家族には代行や諸手続きも含め、多岐にわたるサービスを実践している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者が安心して地域の暮らしが続けられるように、民生委員や区長、近隣住民の方々と連携をとり、支援していただいている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後も本人、家族の意向を大切に、かかりつけ医を継続するケースもある。協力医療機関とは信頼関係を密にしており、定期的な受診のほか、心配事がある場合、すぐに相談できる関係にある。 | 以前からのかかりつけ医に通院は3人で、家族が付き添えない時は職員が支援している。かかりつけ医・協力医とも遠くて時間が掛かり、負担になっていた。10月から若い協力医が引き継ぐが、新しい事業所に近く、看取りの協力も得られている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員は常に利用者の様子に気づかい状態を常に報告し適切な対応が可能である。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報を医療機関に提供し、退院後に関しても関係者や家族と話し合い、情報交換や相談に努めている。本人が安心して治療を受けられるよう、たびたび見舞いに行き、不安の軽減に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人や家族の気持ちを大切に、主治医ともよく話し合ったうえで、医師、看護師、介護職が連携し、安らかな最後の時をむかえられるよ取り組んでいる。 | 23年度は家族やチームの協力を得て4人を看取り、利用者・家族から最期までホームで過ごせる事に感謝されている。新しい事業所には看護師の採用も決まっており、指針に沿った支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応マニュアルを作成し、看護師による勉強会を行ったり、消防署の協力を得てAEDの使用法についての講習を受け、急変や事故発生に備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練をさまざまな状況(昼間、夜間、地震、火事などを)を想定して実地している。地域の方たちにも参加していただいている。 | 地域の方にも参加してもらい、年2回の防災訓練を行っている。夜間想定や紙上訓練等を行い、災害に備えている。昨年指摘の裏山の土砂災害については、町内の危険箇所が多すぎて、行政の協力を得られず、建物の老朽化もあり、危険の少ない新しい場所への移転となった。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者に対しては尊厳を持った対応を常に心がけプライドを傷つけぬよう言葉使いにも注意している。 | 以前化粧品関連の仕事をしていた利用者が、商品に対するこだわりや興味で品数が増えたり、洋服が多くなったりであるが、小遣いの範囲内で考えたり、「髭を伸ばしたい」の希望に沿った男性の支援をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 意思の表出しや自己決定が困難な利用者が多いが職員側が受容する姿勢を示し、日常会話の中で個人の意見が発信できるように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の思いや希望を優先し、一人一人のペースに沿って過ごして頂いている。見たいテレビ番組があるときは就寝時間を遅らすなど柔軟な対応をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | お化粧品や衣服など本人の好みに応じたおしゃれができるよう、一緒に買い物に行って好みの物を買うなどの支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食材の購入時、取引先のパンフレットなどから希望のものを取り入れたり、意見を取り入れたりしている。 | 朝夕は事業所で調理しているが、行政指導を元に昼食を、業者の栄養価等を配慮した食材で提供されている。時には職員が自宅で朝採れた野菜等を追加し、彩りにすることもある。利用者の一人は食器の準備や配膳を手伝う等持てる力が活かされている。 | 経費や栄養重視の行政指導はあるが、利用者の好みや食べたい物、旬の野菜や魚等彩りある食事を利用者と職員のセンスで、一緒に考え、食に対する楽しみを充実されるよう期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分の摂取量を正確にチェックし、体調が悪く摂取量の少ない利用者には補助食品を使用するなど、必要カロリーの確保に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自力で可能な方には声掛けして促進し、介助の必要な方には個々に応じた方法(義歯の洗浄、スワブ使用等)で口腔の清潔に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排尿パターンの把握に努めながら、時間的な誘導や、態度から尿意を察知し、声掛けをして自立に向けた支援に努めている。 | 自立の方は居り、一人は髭の手入れを始めた時期から、トイレでの排泄に繋がった等一人ひとりの排泄状況を確認し、トイレでの排泄を支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 献立内容や水分補給に留意し体操など体を動かすことで自然排便を促している。排便の有無については確実にチェックし対処している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 曜日は決めているが個々の利用者の希望により柔軟に対応している。気候に応じて回数を増やすなど配慮している。 | 火・土の午前中に希望される順に入浴している。浴槽の湯はかけ流しであるが、入浴剤を追加したりで、楽しんでもらっている。介護度により補助具等を工夫し、安全な入浴支援になっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 共用室は畳敷きの為自由に横になったり、ソファでくつろいだり自室で休息するなど、思いのまま自由に過ごしていただいている。就寝時間も個人に合わせて配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬内容は個人記録に明確にし、内容や用法、用量が変わったときは、職員に口頭で伝えている。服薬については利用者の状態に合わせ、全介助、一部介助等により確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 能力に応じ、調理の手伝い、カラオケや縫い物など状況に応じ楽しみごとを持って生き生きと過ごしていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近所への散歩や、希望により、スーパーへの買い物にでかけたり、花見やイチゴ狩りなど、地域の方の協力も得て支援している。 | その日の外出を希望できる利用者が二人おり、近所を散歩したり、スーパーや洋服店に行くなど出来る限り希望に沿った、外出を支援している。また季節の花見、みかん狩り、彼岸の墓参りなど地域や家族の協力で出かけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 会社の方で管理しているが、可能な方については、買い物時の支払いなどできることは自分で行えるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙のやり取りは自由に行ってもらっており、電話も希望があればフォローしながらかけてもらっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 古民家の為開放的な間取りになっており、共用室の障子を開けていけば田畑や山野が広がり、色の移り変わりで季節を感じることができ、居心地の良い空間が感じられる。 | 縁側や玄関全てがオープンで事業所への来客の車の出入りを見たり、前の田・畑・川を渡ってくる風は、季節を感じる事が出来る。奥まった食堂、広い居間に置かれたソファ、テーブル、庭に面した縁側など懐かしい空間で、のんびりと過ごす事ができている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用室は畳敷きで広く、自由にくつろげる空間になっている。気の合った利用者同士縁側でくつろいだり思い思いに過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物やなじみの家具を置いたり、フローリングに畳を敷いたり自分の家に住んでいるような環境で過ごしている。 | 一人ひとりが自宅で使っていたベッドや箆笥・椅子等を持ち込み、シンプルな部屋、沢山の衣類に囲まれた部屋等、各々の利用者が家族の協力を得て、その人らしく過ごせる部屋づくりがされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 古民家の為、段差解消や手すりの設置など随所バリアフリーとし、安全確保と自立への配慮している。 | | |